



令和8年4月30日

かみせや

地域版



横浜市立上瀬谷小学校 学校だより

5月号

㊦感じる心たいせつに ㊧みんなの心、みとめあい ㊨せいっぱい ㊩やってみよう やりとげよう

保護者とまちと学校で

校長 小林 京子

私は、入学式で毎年「てくてく」「ぱくぱく」「はきはき」の技を1年生に授けます。これは学校生活の基本となる「毎日学校に来よう」「しっかり食事をして元気な体を作ろう」「あいさつをしたり自分の考えを表現したりしよう」という1年生へのメッセージです。2年生以上もこの技から本校に入学し、5年が経過しました。成長した上の学年も、この考え方は同じです。ですから、3月の修了式には、「学校に元気に来ること」「給食を残量なく食べること」「全校で集まるときの様子」や「歌をのびのびと歌う様子」は、花丸でいっぱいになりました。

ところがまだ、少し弱いところもあります。それを今年の課題にしました。4月の始業式に「今年、がんばることは、昨年〇がもらえなかったもの、それは、『返事・あいさつ・やさしさ』でしたね」と、子どもたちに話をしました。実は、返事もあいさつもととてもよくできるようになっています。正門前を通過するときの子どもたちは、数年前と比べたらはきはきとあいさつする子がとても増えています。また、教室でも名前を呼ばれたら「はい」という声がたくさん聞かれるようになってきました。卒業式の6年生の返事は来賓の方にもお褒めいただいたくらいです。ただ、課題は、「学校で」「先生の前で」「行事で」というように限られた時と場だけではなく、「いつでも」「一人ひとりが」できるようになることなのです。「やさしさ」は、繰り返し話してきたことです。しかし、こんなできごとがありました。3月にある子が、「学区で近隣の学校の人を傷つける行為をしている人を見ていやだった。いけないと思ったけれど中学生もいたし、注意する勇気がなかったけど、やっぱり気になったから言います。」と本校職員に知らせてくれました。私はすぐに、「してはいけない行動、悲しい行動をしていた本校の児童に『学校だけでやさしい子』なのではなくて、放課後も、地域でも、卒業してもやさしい子でいてほしい」と話をしました。また、ある方からは「公園でのお菓子のごみをポイ捨てる行動があり、気になる」とのお知らせもありました。学校では給食をぱくぱく食べるよい子たちが、そんな姿であることはなんと残念なことでしょう。こちらも地域で遊ぶときにどのような行為を大切にするのかを繰り返し話をしているところです。

この4月には、授業参観と同時に子どもを交えた懇談会を実施するという初の試みの中でたくさんの方に足を運んでいただくことができました。本校の子どもたちが新しい学年でも落ち着いて、また楽しく学習している姿、またどんな学年にしていこうとしているのかを見て知っていただけたかと思います。子どもたちを育てていくためには、保護者、子どもたちを包むまち、そして、学校が同じようなスタンスで育てていくことが欠かせません。まちで会った方に「おはようございます」「ただいま」のあいさつ、注意された時の「はい」など、言えているのでしょうか。家族にもできているのでしょうか。やさしい、思いやりのある行動ができているのでしょうか。よいことは褒め、よくないことは注意していただき素直で健全な子どもたちの育成を一緒にしていただけますようお願いいたします。上瀬谷の子たちがますますよい子になりますように。